小学校の事例 東 区 開成小学校

自発性をはぐくむペットボトルキャップ収集活動。子供たちのパワーを感じ、地域へ広がる。

始まったばかりの回収活動でも、子供たちのクチコミで一気に軌道に。
衛生面を考慮し、回収業者を思いやる工夫も子供たちの自発的な行動から。
今後は地域にも知らせ、「ごみをごみにしない」活動に、
より深みや実感をもたせていきたい。

内容 子どもの発想で実施中

他校でペットボトルキャップ収集活動の経験があった委員会担当の教員から提案があり、児童会書記局の子供たちに投げかけて、ペットボトルキャップを集めてワクチンと交換し、発展途上国の子供たちに送ることができるという仕組み説明した。そこで、平成22年度の5月頃から子供たちが行う活動のひとつに位置付け、書記局から全校へ放送を使って協力を呼びかけるなど、実際の活動が始まった。

玄関と各階に1つずつ、ダンボールで作った大きな回収ボックスが置かれ、近くにはペットボトルキャップがワクチンになるという説明書きやイラストを添え、わかりやすく啓発するポスターをはってアピールしている。

回収BOX

書記局が各ボックスから集めてきたペットボトルキャップは、まず「きれいなもの」と「きたないもの」に分けている。ジュースの水滴などが残っていると、においの原因になり、衛生上もよくないという理由で、子供たちが自発的に行うようになった。この「きたないもの」については、水を張ったたらいを用意し、ゴム手袋をして手洗いし、乾燥させてから回収袋に移している。

仕分け用BOX

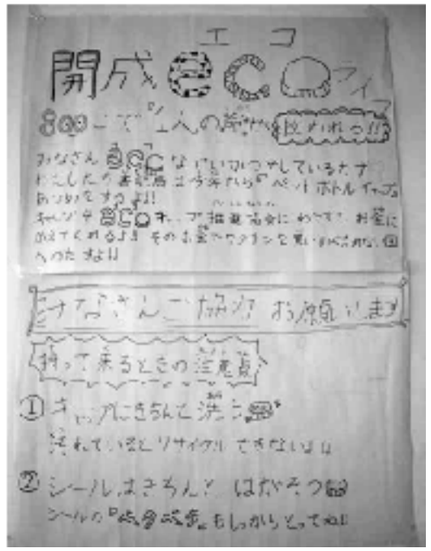
効果 クチコミで家庭へ 地域へ

収集活動は、子供たちのクチコミにより各家庭にも広がり、みるみるうちに集まった。活動のようすを見ていると、特別なことをしているというよりは、日常的に取組む、当たり前の活動といったようすである。

玄関の回収ボックスは、30周年の開校記念式典や参観日に訪れた保護者や地域の方の目にも触れたようで、まとまった量を持ってきていただくことも数回あった。開始から9カ月。3月にはこれまで集まった分10袋を登録業者に回収してもらう予定。今日も、書記局で使用している教室がペットボトルキャップであふれるほど、順調に集まっている。

集められたペットボトルキャップ

今後は、活動により深みと実感をもたせるために、子供たちにユニセフが制作しているビデオ（発展途上国の子供たちの様子やワクチンの必要性が取り上げられた内容のもの）を観せる機会や、ゲストティーチャーとして同団体の方から子供たちにお話をいただく機会をもつことができればと考えている。また、今後立ち上げ予定の、地域の方々から成る「健全育成の会」をとおし、地域の方により広く回収活動を知らせ、協力を得られればと考えている。



協力を呼びかけるポスター

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

本学校の重点目標は「思いやり」です。子供たちを取り囲む地域・保護者も一丸となり、この「思いやり」を育てています。一人一人の生きる時間は、ずっとつながっている人類、そして地球の歴史の中のほんの一部に過ぎませんが、「人間だけでなく、共存する動植物のための取組」というのが人間の使命だと考えています。自分のためだけではなく、地球のために、自分にできることを一つひとつ実践していくことの大切さ、意義を理解させていきたいと思っています。